

げ示され学校側校医養護指導などにとっても父兄にとっても非常にありがたいものと思われる。その意味でも実際の効果は大きく高く評価されるべきものとする。

○川崎病の突然死に関する研究

本研究班の調査により川崎病は各地域に益々多数になりつつありしかも冠動脈の動脈瘤などの変化が以前考えられていたよりはるかに多く且つ後年にその影響が及ぶことが案じられる状況が明らかになった。しかもその原因についてはいろいろ考えられてはいるが諸説紛々として未だ十分明らかになったとは言えない。またこれが突然死の一因であるから重大な問題である。そこで本班ではその疫学的調査から臨床治療方針その後の管理病理学的検討まで広範にわたり詳細な研究が進められ、一般的治療方法および現時点で最善と思われる管理方式など一応班員の一致した意見をまとめその治療と管理に関する提案を出されたことはまことに時宜を得た措置と考えられ高く評価したい。そして少しでも本病の発生とそのための犠牲を最小に止める資料となることを期待したい。同時にこの重大な問題は予防をも含め今後解決を急がねばならぬことでもあり何らかの形で引き続きその原因究明その他追跡などを進めて行くべきであるとする。

○日本人小児の高脂血症に関する疫学的並びに臨床的研究

動脈硬化は成人病の原因として重大であるがこれはずでに小児期から始まり虚血性心疾患などの予防は小児の頃からはじめる必要性が言われるようになりこの課題が取り上げられたと思われるが各地域で疫学調査が始められた結果血清コレステロール、トリグリセリッド HDL コレステロールの検討ではなおはっきりした一定の傾向はみつからず年度によっても差があるようでもあり広範囲に相当長期間継続してゆくことが必要と思われる。

しかし一方肥満度と高脂血症は正の相関を HDL-コレステロールとは負の相関がみられると言いままた家族的危険因子を持つものは一般より高く、糖尿病児にはそのコントロールの良否との関連があるなどその他にも検討が加えられ一応成果は認められるがむしろ今後の長期にわたる継続作業が必要と思われる。

評 価(意見)

評価委員 日本医大小児科 村 上 勝 美

研究課題はいずれも重要なもので、その選択は概ね妥当で、それぞれ程度の差はあるがある程度の成果が見られる。

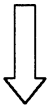
とくに「日本人小児の高脂血症に関する研究」はきわめて重要な意義を有するもので疫学的には一応成果があげられている。HDL の測定については基礎的に問題があるように諒解しているし、また index の表現について班に不統一がある点などに問題がある。しかし、HDL の意義について成人の IHD と短絡的に結びつけて考えることには現段階では無理があり今後の幅広い、奥深い、longitudinal な臨床的研究が必要であろう。

われわれは MCLS で HDL の著明な低下例を見、follow-up によって変動のパターンを追求し、MCLS の重症度後遺症有無判定のパラメーターの 1 つとなると考えている。またある種のウイルス性疾患でも HDL の低下が見られるので高脂血症だけを問題にせず、脂質の細かい分析にまで研究を進めることが望ましい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究課題はいずれも重要なもので、その選択は概ね妥当で、それぞれ程度の差はあるがある程度の成果が見られる。

とくに「日本人小児の高脂血症に関する研究」はきわめて重要な意義を有するもので疫学的には一応成果があげられている。HDL の測定については基礎的に問題があるように諒解しているし、また index の表現について班に不統一がある点などに問題がある。しかし、HDL の意義について成人の IHD と短絡的に結びつけて考えることには現段階では無理があり今後の幅広い、奥深い、longitudinal な臨床的研究が必要であろう。